



経歴	
平成15年 4月	総務省採用 同 統計局統計調査部国勢統計課 労働力人口統計室企画指導第二係
平成16年 7月	同 統計局統計調査部経済統計課事業所・企業統計室企画係
平成17年 7月	同 統計局統計基準部統計審査官付
平成18年 8月	同 政策統括官付統計審査官付統計審査担当主査
平成19年 7月	厚生労働省社会保険庁運営部企画課数理調査室数理第一係長
平成20年 7月	同 年金局企業年金国民年金基金課基金数理室数理指導係長
平成21年 7月	同 年金局企業年金国民年金基金課基金数理室数理専門官
平成23年 1月	現職

## ～十年一昔～

総務省統計局統計調査部経済基本構造統計課課長補佐

小泉 英希

### 欲張り者と携帯電話

10年前、大学院の修士2年生で数学を専攻していた。ちょうど官庁訪問の時期にさしかかり、バイトとゼミと教育実習と官庁訪問に追われていた。つらかった。

バイトを辞めれば、収入がなくなるのはもちろんのこと、バイト先の方との信頼関係が崩れる。ゼミをさぼれば修士論文に影響し、大学卒業でいいやと妥協の道へ進んでしまう。教育実習をあきらめれば担当教師・生徒に多大な迷惑がかかる。官庁訪問を投げ出せば教職の道のみを目指すこととなり、本当に自分のやりたい事を探すための選択肢すら制限してしまう。何より今の自分はなくなっていた。

どれか一つを切り捨てられればよかったが、生来の欲張り症が災い(幸い?)して、どれもあきらめなかった。まだ機能の少なかった携帯電話を片手にとってあちこちに連絡しながら、何とか乗り越えていった。10年後には、理工系のノウハウを生かせる職業に携わっていることを信じて。

### 時代の変化をとらえるために

平成24年4月現在、公務員として10年目になる。いつの間にか結婚していた。携帯電話は格段に進化し、携帯電話と携帯音楽プレーヤーとカメラとパソコンの境界がなくなっているようだった。私の片手にある携帯電話の役割も、10年前はバイト先への連絡や友人とのたわいもない話に用いていたものが、もっぱら妻への連絡手段とオンラインショッピングの宣伝広告メールの受け皿となっていた。

携帯電話が時代の変化を表しているとしたら便利だろうが、その評価は利用しているツールに依存し、結局は個人個人の主観によるだろう。個人の主観を排除して時代の変化をとらえるためには、数量評価が必要である。

そのためのツールとして統計データがある。今私は、平成27年に実施予定の国勢調査の企画・立案を担当している。5年に一度実施されるが、こうした定期的・周期的な統計調査のデータによって、私たちが日頃耳にする、日本の高齢化や世帯構成の変化などの時代の変化を数量的にとらえることができる。その統計調査であるが、時代の変化に伴う実施環境やICTの利用などの動向を踏まえ、調査方法を変化させる必要がある。30年前の統計調査でオンライン回答の話を持ち出したなら笑われただろうが、今現在はオンライン回答の話を持ち出さないと笑われるであろう。

このように、時代の変化に対応させることが、私のここ数年の仕事内容だったと思う。過去には、諸外国と比べて整備が遅れているビジネスレジスター(統計調査の対象となる事業所・企業のデータベース)に行政記録情報を活用するため他省庁と調整し、また、従来のままでは不十分となった旧統計法の改正の現場に携わり、他省庁へ出向し年金の法令改正などに携わってきた。

理工系のノウハウが使えるところもあったが、法令改正などは、振り返るとあまり関係がなかったと思う。ただ、欲張り症の私には、理

工系という枠にとらわれず、様々な業務を行うのがあっているようにも思う。総務省は施策が非常に広範であるため、様々な施策に関わることができる。ここへ来て、私は10年前とは違った意識になっていた。理工系とか文系とか関係ない、目の前にある多様な施策をより良いものにするのだ、と。

### 10年後に期待して

10年後の日本は、私はどのようになっているだろうか。10年前に今の私を想像できなかったように10年後のことは想像できないだろうが、相変わらず時代は急激に変化しており、この流れに乗らなければならない。

総務省は、先述のとおり施策が非常に広範である。これらの施策を通じて時代の変化をより様々な角度から感じ取ることができる。きっと10年後にも、総務省は私の予想もしないような新たな仕事の魅力を気付かせてくれると信じている。

時代の変化を感じ取り、自分自身をより向上させたいと考える方は是非とも足を運んでいただきたい。それでも総務省は、きっといい意味で皆さんを裏切ってくれると思う。



出張先(エストニア)で国際会場外暖戦!  
(筆者左から3人目)



休日は趣味のゴルフ!  
(筆者左端)

経歴	
平成18年 4月	総務省採用 同 自治行政局選挙部選挙課
平成18年 8月	埼玉県総務部財政課
平成20年 4月	総務省人事・恩給局国家公務員退職手当法改正検討室
平成21年 4月	内閣府地方分権改革推進室
平成21年 12月	同 地域主権戦略室主査
平成23年 4月	現職

## どんなときでも、前に進むことを意識して

総務省行政評価局政策評価官室評価監視調査官

波多野 洋史

### はじめに

皆さんはどのような気持ちでこのパンフレットを手にとっているのでしょうか。私は、面接を控えた待合室でこれと同じようなパンフレットを読んでいた。職務に対し凛々しく熱い思いを述べる先輩職員の方々のメッセージや写真を見て、果たして自分はこのようになるのだろうかかと期待と不安の入り交じった複雑な気持ちでいたことを記憶しています。月日はめぐり、私が総務省に入省してから6年が経過しつつあります。採用時に思い描いた理想にどれだけ近づけているのか、今でも自問自答する日々です。

### 公共政策への興味から

私が国家公務員という仕事を希望したのは、公共政策への興味からでした。政策的な対応が要請される社会的課題に対して何らかの解決策を見出し、その解決策を実行していく、その過程の中に身を置きたいと考えていました。そして、特定の政策分野というよりも、すべての政策を進めていく上で土台となる、国家の基本的な仕組みそのものをしっかりとしたものにするのが、国の発展のためには重要ではないかと思ったのです。国の行政制度や地方自治制度、情報通信といった社会のベースとなる分野を所掌する総務省は、まさに自分にとって望ましい職場でした。

### これまでの仕事を通して

行政評価局は政策評価制度全体の設計、各府省が行った評価の点検、独自の調査の実施などの役割を担っていますが、その中で私は、政策評価制度の企画立案に携わっています。現在は、各府省で施策の事後評価のために広く用いられている「目標管理型の政策評価」の改善方策について、検討を行っているところです。

限られた予算・人員の下で、国民本位の効率的で質の高い行政、国民的視点に立った成果重視の行政を実現していく必要があります。その点において、PDCAサイクルを有効に機能させていくための基盤たる政策評価制度への期待は非常に大きいものですし、携わって仕事するのやりがいを感じることもできる分野であると思います。

入省してからこれまでの間に、地方自治体や内閣府といった省外の職場も含め多様な経験をすることができました。それぞれのステージにおいて、上司や同僚など多くの方の助けを得て仕事に取り組み、自分自身も成長してこれたのではないかと感じています。政策課題を検討する際に、すべてにおいて優れている「解」はなかなか存在しません。いろいろな立場の人が意見を持っていて、いろいろな制約条件が存在し、その中で方策を考えていくのは容易ではないからです。しかし、課題が認識されている以上、何らかの処方箋を考えて、逃げずに物事を前に進めようとするのが大事であるし、それが我々に求められている役割なのだと思います。

### 職業選択の過程にいる皆さんへ

仕事を進める中では精神的・体力的につらい場面もあります。それでも何らかの答えを見つけて、一步一步前に進んでいく必要があ

ります。そのような状況の中で、一つの大きな支えとなりえるのは、自分が仕事を選んだときの理由ではないでしょうか。皆さんは、どのようにその仕事を選ぶのでしょうか。社会におけるどのようなことに価値を置いて考えるのでしょうか。職業選択の理由を真剣に考えるのは決して楽な作業ではないと思いますが、将来、きっと大きな財産になってくれるはずですよ。

学生の頃想像していたことと、実際の仕事で感じるものとは多かれ少なかれ異なるものです。また、仕事は一人でするものではありません。先輩職員がどのような人たちなのか、同じような価値観を共有できるかという点も、志望する政策分野への興味と同じくらい大事な点です。是非、説明会などで職員の声を聞いてみてください。

数ある府省の中でも、幅広い所掌事務を持つ総務省は皆さんにとって素晴らしい職場になる可能性を秘めています。私はこの仕事が好きです。政策過程の中にいられること、仕事を通して社会に貢献できることを幸せに感じますし、総務省はとても魅力的なところだと感じています。少しでも多くの皆さんが国家公務員としての仕事、総務省の仕事に興味を持ち、それらを将来の選択肢の一つとして考えてもらえることを願っています。

